

山田業広 医案②

業広。嘗て一旗下の内室を診す。脚氣 呼吸息迫、但坐して側臥することを得ず。是れ 唐侍中一方の正証なり。前医の処方を見るに、矢張唐侍中の一方形なり。傍人に問ふに、嘔逆の気味ありて、漸く一服を飲む位也と云ふ。因て小半夏加茯苓に呉茱萸少許を加て用るに、飲みこころ甚だ宜しと云、前方を用ること一月半許にて、全快せり。尔後癖になりて屢用ゆ。犀角旋復花湯より、其具合甚よろし。先年医事小言を讀しとき、心にとめざりしが、再び検して暗合を喜べり。近頃外台を讀みて、古人已に小半夏湯の類を脚氣に用たることあり。茲に掲て、参考に備ふ。